膀 胱 瘻 造 設 術 に つ い て

１．病名、症状

・病名：尿閉、前立腺肥大症、神経因性膀胱、腫瘍、外傷、炎症など

・症状：何らかの原因（前立腺肥大症、神経因性膀胱、腫瘍、外傷、炎症など）で尿道が閉塞したり、膀胱の収縮力がなくなったりすると、まったく尿を出すことができない状態（尿閉）になります。

２．この手術の必要性、受けなかった場合の予後、予測

尿道からカテーテル留置が困難な場合、カテーテル留置が長期になる場合（尿道が裂けてくる）など膀胱瘻造設が望ましい状態です。

３．手術の計画・内容・方法、対象部位（左右、上下など）

○ 感染予防のため、抗生剤の点滴や内服を行う場合があります。

○ 手術時間は30分程度です。

○ 下腹部（恥骨上縁より1～2㎝）にエコーで安全を確認し、専用キットでカテーテルを挿入します。下腹部に小切開をおき膀胱瘻を造設する時もあります。

○ 治療終了後は約3時間程度のベッド上安静が必要です。

○ 膀胱の状態によっては、膀胱瘻造設が難しい場合があります。

○ このような場合、後日再度治療を行うか、もしくは別の治療を行う必要があります

○ 局所麻酔 あるいは 脊椎麻酔 で施行します。

４．手術の一般的な経過と注意事項

治療終了後は約３時間程度のベッド上安静が必要です。

膀胱瘻造設後は、定期的にカテーテル交換を行います（1～2ヶ月に一度）。

交換の際は造影剤を注入し、膀胱瘻の位置、膀胱の状態などを確認することがあります。

５．期待される効果

尿閉が改善されます。

６．予想される危険性・合併症・副作用と対処方法

１）出血：膀胱にカテーテルが入った部位からのわずかな出血（特に血尿）はすべての方にみられます。程度が強い場合は輸血や追加の処置を行います。

２）臓器の損傷：治療時の操作により周囲の臓器（腸、腹膜、血管、尿管など）に傷がつくことがあります。追加の処置や開腹手術を行うことがありますが、極めて稀です。

３）術後、尿路感染症により発熱が生じることがあります。

安房地域医療センター

2021.2.20